

令和元年度 県政運営評価戦略会議（第6回）

1 日 時 令和元年11月18日（月）午後1時30分から午後2時55分まで

2 会 場 県庁10階 大会議室

3 出席者 委員

県

| | | | |
|--------|-------------|--------|----------------------|
| 阿部 頼孝 | （敬称略。以下同じ。） | 田中 稔 | 監察局長 |
| 石田 和之 | | 佐々木 季裕 | 監察局次長 |
| 伊庭 佳代 | | 飯田 博司 | 政策創造部総合政策課長 |
| 植田 美恵子 | | 三宅 啓之 | 政策創造部地方創生局地方創生推進課副課長 |
| 加藤 研二 | | | ほか |
| 近藤 明子 | | | |
| 坂本 真理子 | | | |
| 田村 耕一 | | | |
| 鳴滝 貴美子 | | | |
| 南波 浩史 | | | |
| 久岡 佳代 | | | |
| 藤原 学 | | | |
| 榎本 久実 | | | |

（会議次第）

1 開 会

2 議 事

- (1) 提言書（案）（「新未来『創造』とくしま行動計画」の評価結果及び「県民からの優れた意見・提言」について）について
- (2) 提言書（案）（「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価結果について）について
- (3) 「とくしま目安箱 優秀提言」表彰候補の選考について
- (4) 徳島県総合計画審議会への提言書（平成30年度）に対する回答について（『未知への挑戦』とくしま行動計画）への反映状況等
- (5) 地方創生“挙県一致”協議会への提言書（平成30年度）に対する回答について（「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」への反映状況等）
- (6) その他

3 閉 会

（会議概要）

- 1 提言書（案）に係る協議及びその承認（資料1及び2）
- 2 「とくしま目安箱 優秀提言」表彰候補の選考（資料3から5まで）
- 3 提言書（平成30年度）を踏まえた対応の説明（資料6及び7）
- 4 次年度の評価方法（素案）の説明及びこれに係る意見交換（資料8）

■開会

(事務局)

それでは、ただ今から、令和元年度、第6回県政運営評価戦略会議を開会いたします。議事に先立ちまして、田中監察局長から御挨拶を申し上げます。

(監察局長)

監察局長の田中でございます。

本日は、第6回の県政運営評価戦略会議を開催いたしましたところ、石田会長をはじめ、委員の皆様方には、大変御多忙の中、御出席を賜りまして、ありがとうございます。

皆様方には、5月の第1回会議、そして、8月の集中審議を経まして、行動計画144の主要施策、そして、総合戦略134の主要事業につきまして、大所高所から御評価、そして、示唆に富んだ御提言を頂いたところでございます。この場をお借りしまして、改めて、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

本日でございますけれども、評価会議の総括としての提言書の取りまとめをはじめ、議事次第にございますような各項目につきまして、御審議を頂くこととしております。

皆様方には、どうか忌憚きたんのない御意見、御提言を賜りますよう、重ねてお願いを申し上げます。開会に当たっての、簡単ではございますが、御挨拶とさせていただきます。

本日は、どうかよろしく願いいたします。

(事務局)

それでは、以降の議事の進行につきましては、石田会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

■議事1：提言書（案）（「新未来『創造』とくしま行動計画」の評価結果及び「県民からの優れた意見・提言」について）について

(会長)

それでは、お願いいたします。早速、議事に入らせていただきます。

皆様、議事進行に御協力のほど、よろしくお願いいたします。

まず、議事（1）「新未来『創造』とくしま行動計画」の評価結果及び「県民からの優れた意見・提言」について、協議をお願いしたいと思います。

今年の夏に開催いたしました戦略会議における行動計画の「総括評価」の結果等について、資料1のとおり、提言書（案）として取りまとめております。委員各位には、事前に事務局から送付しておりますので、ここでは、その概略を御説明したいと思います。

お手元に資料1を御用意ください。

まず、資料1の1ページをお開きください。「1 評価方法について」ですが、ここには、改めて「評価の対象」等をまとめております。

2ページから、「2 評価結果について」ということで、改めて、4年度にわたる行動計画の評価結果を総括しております。冒頭、C評価が計画最終年度で初めて2割を超えた

ことを、表なども交えて指摘しつつ、2ページの最後の方から3ページにかけて、戦略会議が評価したこれまでの3つの総合計画を比較しております。

過去の2つの計画とは評価単位等が異なりますので、単純な比較はできませんが、C評価の割合は今回ぐっと増えております。

(2)において、C評価の状況について特に留意すべき点を、簡単にですが指摘しております。

なお、当会議は、今般の「新未来『創造』とくしま行動計画」の評価から、従来のABC判定の重視から、委員の皆様からの建設的な、あるいは未来志向の御提言の重視へとシフトチェンジしております。施策の現状や将来性をも加味した総合的な評価ということで、会議の場で、あらかじめ用意していただきました代表委員の評価案をベースにして議論をし、そして、評価案から評価を変更するといったこともしてきました。

その上で、頂きました御提言の主なものを、4ページの(3)、5ページの(4)に列挙させていただいております。ここに列挙させていただいたものを含め、この夏の会議で委員各位から頂いた御提言につきましては、お手元のタブレット端末の提言書・別冊の中で、該当する主要施策の委員意見の特記事項の欄にそれぞれ記載させていただいております。

そして、6ページの(5)におきましては、これら当会議からの提言が、この夏に策定されました新たな総合計画「『未知への挑戦』とくしま行動計画」の初回の改善見直し、すなわち「進化」のお役に立てばということで締めくくってございます。

7ページから9ページにかけては、第2回会議で採択いたしました「県民からの優れた意見・提言」を、改めて掲載しております。

以上、行動計画の提言書(案)の概要を御説明いたしました。

いかがでしょうか。よろしければ、別冊を含めて、提言書(案)について、この内容で徳島県総合計画審議会に速やかに提言し、「『未知への挑戦』とくしま行動計画」の見直し作業等の中で御活用いただくこととしたいと思います。

このような取扱いとすることで、よろしいでしょうか。

<異議なし>

ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。

■議事2：提言書(案)（「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価結果について）について

(会長)

続きまして、議事(2)「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価結果について、協議をお願いしたいと思います。

総合戦略の評価結果等についても、資料2のとおり、提言書(案)として取りまとめてございます。

お手元に資料2を御用意ください。

まず、資料2の1ページをお開きください。「1 評価方法について」ですが、ここでも、改めて「評価の対象」等をまとめております。

2 ページでは、「2 評価結果について」ということで、(1) で評価結果を表やグラフを用いてまとめております。

3 ページの(2)では、皆様から頂いた主な御提言を列挙しております。これらを含め、この夏の会議で委員各位から頂いた御提言は、先ほどと同様、お手元のタブレット端末の提言書・別冊の中で、該当する主要事業の委員意見の特記事項の欄にそれぞれ記載させていただいております。

続いて、4 ページの(3)でございますが、「新たな総合戦略」への反映についてということで、今回の評価を総括しております。その概略ですが、まずは、A評価及びB評価の合計が引き続き9割超を維持し、概ね順調に推移してきたことを評価しつつも、C評価となった13の主要事業について、幾つかを例示しながら、委員各位からの御指摘や、会議からの助言を記載しております。

その上で、計画期間も残すところ4か月余りとなり、目標達成に向けた最大限の努力を求めるとともに、当会議からのこの提言が、令和2年度から5か年の「新たな総合戦略」の策定のお役に立てばということで締めくくっております。

以上、総合戦略の提言書(案)の概要を御説明いたしました。

いかがでしょうか。御確認いただきまして、よろしければ、別冊を含む提言書(案)について、この内容で地方創生“挙県一致”協議会に速やかに提言し、「新たな総合戦略」の策定作業の中で、御活用いただくこととしたいと思っております。

このような取扱いとすることで、よろしいでしょうか。

<異議なし>

ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。

■議事3：「とくしま目安箱 優秀提言」表彰候補の選考について

(会長)

続きまして、議事(3)「とくしま目安箱 優秀提言」表彰候補の選考を行いたいと思っております。

まず、事務局から「表彰に関する要綱」について説明をお願いします。

(事務局)

「とくしま目安箱 優秀提言」表彰に関する要綱(資料3)の説明

(会長)

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは。

(事務局)

それでは、続きまして、表彰候補の選考につきまして、御協議をお願いしたいと思います。

とくしま目安箱に寄せられた「県民からの優れた意見・提言」(資料4)の説明

「とくしま目安箱 優秀提言」表彰 過去の実施状況（参考）（資料5）の説明

改めて、資料4、今年度の状況でございますが、いずれの部門におきましても、得票数第1位と第2位の票差が大きいということで、一般部門は10票、次点が5票となっております。若者部門も9票に対して次点が4票ということになっております。それと、いずれの部門の最多得票のものも、昨年度の「最優秀提言」表彰候補の得票数には届いていないという結果になっております。

そうしたことから、今回は、それぞれの部門の第1位を「優秀提言」表彰候補としまして、「最優秀提言」表彰候補は「該当なし」としてはどうかと考えております。

事務局からの説明は、以上でございます。

（会長）

ありがとうございます。

ただ今、表彰候補の選考について御説明いただき、そして、過去の表彰の状況も御説明いただいた上です。今回の選考について提案がありました。

事務局からの提案では、一般部門の第1位、「徳島県の今後のイメージ戦略について」、そして、若者部門の第1位、「麺フェスの開催について」を「優秀提言」の表彰候補とし、今回は「最優秀提言」の表彰候補はなしとのことでございます。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

<異議なし>

それでは、「優秀提言」表彰の候補を次の2つ、つまり、一般部門から「徳島県の今後のイメージ戦略について」、そして、若者部門から「麺フェスの開催について」とし、「最優秀提言」表彰の候補はなしということで、飯泉知事に報告させていただきます。

■議事4：徳島県総合計画審議会への提言書（平成30年度）に対する回答について（『未知への挑戦』とくしま行動計画）への反映状況等

（会長）

続きまして、議事（4）徳島県総合計画審議会への提言書に対する回答について及び議事（5）地方創生“挙県一致”協議会への提言書に対する回答についてに移りたいと思います。

昨年度に実施した行動計画と総合戦略の評価結果等をまとめた提言書につきましては、昨年11月19日にそれぞれの会議に提出しておりますが、これに対する回答を、今回、御説明いただきます。

まずは、徳島県総合計画審議会の事務局である総合政策課から、説明をお願いいたします。なお、こちらは、『未知への挑戦』とくしま行動計画の概要説明も兼ねることになるのではないかと思います。

それでは、お願いいたします。

（総合政策課）

「新未来『創造』とくしま行動計画」の評価結果及び「県民からの優れた意見・提言」

を踏まえた対応について（通知）（資料6）の説明

（会長）

ありがとうございました。

ただ今の御説明に関しまして、御質問、御意見等、いかがでしょうか。

確認しておきますと、これは昨年度のお話ということになりまして、スケジュールの都合上、今の段階で御説明いただいておりますが、我々が今年の夏、議論し、評価したときには、既に反映されているはずということでございます。

いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、議事（4）徳島県総合計画審議会への提言書に対する回答についてはここまでにしたいと思えます。

ありがとうございました。

■議事5：地方創生“挙県一致”協議会への提言書（平成30年度）に対する回答について（「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」への反映状況等）

（会長）

続きまして、地方創生“挙県一致”協議会の事務局である地方創生推進課から、説明をお願いいたします。

（地方創生推進課）

「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価結果を踏まえた対応について（通知）（資料7）の説明

（会長）

ありがとうございました。

ただ今の御説明に関して、御質問、御意見等はございますでしょうか。

いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

はい。ありがとうございました。

それでは、議事（5）につきましても、ここまでにしたいと思えます。

ここで、総合政策課、地方創生推進課の皆様は退席されます。お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございました。

■議事6：その他

（会長）

続きまして、議事としては「その他」ということですが、これが最後となります。資料8「『未知への挑戦』とくしま行動計画」及び「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」の次年度の評価方法、こちらの「素案」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

「『未知への挑戦』とくしま行動計画」・「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」の次年度の評価方法(素案)(資料8)の説明

(会長)

ありがとうございました。

ただ今、事務局から説明がありましたが、これは、正式には次回、つまり、来年の3月に開催予定の会議で協議して決定するという事項でございます。今回は、そのための「たたき台」として、「素案」ということで、これを基に皆様に御議論いただくということでお示ししております。

今から本格的に協議して決めてしまうというわけではございませんので、委員の皆様には、この素案を基に、これからいろいろお考えいただいて、次回の会議で協議の上、決定したいというふうに考えております。

とは言え、せっかく今日お集まりいただいておりますので、この場で、御意見、御質問などがございましたらお伺いしておきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

(A委員)

今、御説明いただいたように、これまで、評価を行っていく上で、いろいろ変更もあったと。そして、今回の「素案」では、主に数値でどんどん測っていこうと。

県政の運営について評価するとき、行動計画もそうなのですから、そういうものを評価するときには、定量的な、こういった数値における評価が基本となっております。でも、一方では、誰がこの政策によってメリットを受けたりデメリットを受けたりするかというと、それは県民であると。そういったところで、評価するに当たっては、数値だけでは捉えられないところはかなり大きいということは、皆さん、よく御存じのところかと思うのですけれども。

これまでは2段階で、評価案を一人の委員が出して、それについて議論というところだったのですけれども、そういうステップを踏まずに、こういうふうにまず数値で示しておいて、そこからもうみんなで一斉に議論をしましょうという御提案を頂きました。

これに関しまして、私といたしましては、「働き方改革」などと言われる中で、皆さんがより効率的にいろんなことを思考でき、それを実施していこうという時代においては、本当に良い方向に向かっているのではないかなというふうに思っております。

そして、もう一つ、評価とは少し違ったところで、我々がこの会議の中で評価したことというのは、先ほど御説明いただきましたように、各計画の中でいろいろと修正をしていただいているところもあるのですけれども、まだそれが不十分ではないかなとも感じているところなのです。

例えば、この行動計画の中で出されている「評価指標」についても、評価する側として、「成果指標」をなるべく出してくださいというようなことを長年お願いしているのですけれども、それとはまたちょっと違ったところで、「住民がどのように感じるか」というのは、成果指標1つ、2つ程度では判断できないところが往々にしてあると思います。

で、我々が、抽象的な意味でも申し上げたこと、あとは、この指標で果たしてこの政策

のくくりのものが評価できるのかと疑問を呈したところに関しましては、部局でお持ち帰りいただきまして、より効率的に行政の運営ができるように。さらに、より住民にメリットが説明でき、しっかりと御理解いただけるような指標の選定を、新たに部局で議論していただく。その上で、部局プラスこの会議から出てきたところ、あとはパブコメや日々のお仕事の中で感じられているところで、より柔軟に対応いただけるような仕組みをお作りいただけたら大変助かると感じております。

以上でございます。

(会長)

ありがとうございます。

おっしゃるとおりでして、いろんな意見、提言といたしますか、コメントに係る部分をより一層重視していこうというのは、この見直しの趣旨の一つでございますので。そのような形にするためのという部分もあったりするかと思います。そうなるはずでございます。

その上で、この「素案」のですね、私なりの理解を、先ほど事務局から御説明を頂いたのですけれども、追加をしておきますと、(1)のところには表がありまして、R1までの骨格が左側にあって、そして、R2以降の骨格「例」でございますけれども、これですね、左から右、今までやってきたことから来年度以降に向けての変化として大きな部分は、R1までは縦軸と横軸で評価しておりまして、縦軸の方、「今後の取組方針」という部分も含めて評価の対象になっているということになります。

一方、R2以降の方は、数値目標の「達成率」になって、これまでは「達成状況」だったのですけれども。つまり、これまでどれくらい進捗してきたのかという部分ですね。そのみで評価するということになっておりますので、そこがまず大きく変わっております。もちろん、今後の取組は大切なのですけれども、評価としては「達成率」。これまでも「達成状況」というふうには言っていたのですけれども、こちらの方でもってABCを付けていくというふうに大きく変わるということになります。

で、先ほど頂きました、「とは言え、評価の仕方であったり、施策として足りないところがあるのではないかと云々」というA委員さんうんぬんからのお話ですね。こちらは、まさに「今後の取組方針」のところに関わる部分かと思いますが、こちらは「意見」ということで、もっと提言書に盛り込む「意見」を頂いていこうということでございますので、ABCといたしますか、資料8で言いますと「1次判定」とありますけれど、これがあるからといって意見交換の時間がなくなるとか、短くなるということではなくて、むしろ、どちらかというところ、これまで、案としてABCと出していただきましたものを、評価を変更しますか、どうしますかというところに重点があって、御意見を頂いていたところがあったかもしれないのですけれども、ABCそのものというよりも、もちろんそれを踏まえながらなので、こんなふうに改善していただきたいというところを幅広く御意見を頂くと。そこに時間を使っていければという方向でございます。

また、見直しの方向性①、②、③とあるわけなのですけれども、今お話ししたのは②の委員からの意見の重視を進めていくというふうなところになります。③のですね、負担の軽減というものがあるのですけれども、確かに負担は軽減していただきたいと思うのですけれども、部局の方に楽をしていただきたいというわけではなくて、合理的にということ

ろも含めてということになります。

例えば、(2)のところで、これはお互い、我々にとってもということなのですからけれども、これまで別々に評価、前半3回を行動計画、4回目を総合戦略としておりましたけれども、事業としてやはり重複するところがあったりしますので、こちらはですね、評価のシートに工夫していただいて、評価の作業を一回に集約といいますか、今回は行動計画、今回は総合戦略というふうに分けるのではなく、事業を評価して、それが行動計画の評価になり、そして総合戦略の評価にもなるような形で、進めていこうということでございます。

あわせて、ここにはないのですけれども、部局の方々です。今日は後ろに誰もいないのですけれども、夏には毎回、多くの方に来ていただいております。遠方からも来ていただいております。来るなというわけではないのですけれども、そんなに来なくてもよいのではないかということも含めてです。南部、西部であれば、テレビ会議で、サテライトがあればそういうところから参加していただいてもよいだろうと思いますし。それは、たとえ、その日に御説明いただくことが確実であっても、別にここに来て御説明いただかなくても、テレビ会議システムで南部、西部から説明していただいても全然構わないかなと思いますので、そういうところも含めてということになります。

また、委員の皆様方もです。御出席いただくときにですね、わざわざサテライトのところまで出向くというのではなく、個人でタブレットなりスマホなりを持っていればですね、「Skype」で参加したりというようなことも含めてです。そうすると、いろいろお忙しい方々は、出張先であったり、職場の近くで、移動の時間なく、会議時間だけ御出席いただくということもできたりするのではないかと。

そういうふうなことも含めてということになります。この方向性の③は、できるだけ効率化、あるいは現代のやり方にあった形に改善していこうということでございます。

私から補足ということで、追加させていただきましたが、そのような方向でということです。

また、これですね、次回、本格的に意見交換をしてということなのですからけれども、それまでの間にいろいろふっと思いついたことがあったり、こんなふうにするという改善の案がありましたら、いつでもこちらにお伝えいただければ、お互いにメリットになる、より良い方向になると思いますので、案があればお願いいたします。決して、改善するために何かを犠牲にしたいとは思っておりませんで、良くなる方向へということだと思います。

いかがでしょうか。もし、この場で御意見あれば、思いついたことなどあれば、お願いしたいのですが。

はい、どうぞ。お願いします。

(B委員)

すみません。前から思っていたことも含めてということで、少しお話しさせていただきます。

次年度というか、新しい行動計画を評価するということでの、今お話しいただいた評価方法については、先ほどから議論があるように、この会議の位置付けとして、ABCを付けることではなくて、今後どうすべきだというような提言を重視するというところへの、それをより一層ということについては、その通りだと思いますので、そこについては全く

良いかと思えますし。評価方法のところ、表の形式が変わるというところも良いとは思うのです。

評価シートを作る形になると思うのですが、そこでの話で、今日も数値目標との関係のところに出たと思うのですが、できればなのですが、数値目標として設定された数値がどういう理屈に基づいて算出されたのかというところを、評価シートの中の文章を書く欄に記入していただきたいと。この会議の一番の役割はABCを付けることではないということは踏まえた上での話なのですが、実績値と目標値とのかい離が大きいとか小さいというところがABCという話で、それが「こうあるべき」という議論において一番重要な、基礎的な情報だと思うので。

ただ、悪い言い方をすれば、最初から目標値のハードルを低めに設定しておけば、全ての項目でA評価を得るということも当然できるわけで。でも、それでは意味がないし、恐らく、そういう形での目標値の設定はされてないと思います。しかし、「実績値×1.1」とか「×1.2」とかということで、10パーセント増とか20パーセント増という数値自体には特段意味がないけれども、それを取りあえずの目標値に設定しましょうということは、恐らくあるとは思うのです。一方で、絶対的にその数値が目標値としては重要であるという項目も、恐らくあるだろうと。

今年の会議でも、目標値がなぜこれになっているのか分からないから評価のしようがないというところも幾つか議論があったと思いますので。となると、ABCを機械的に付けることは、「目的」ではないけれども役割の一部を担っているし、そこを踏まえて今後の提言という話になったときには、「確かにこれは非常に重要な目標で、非常に努力をされているけれども、最初から目標値としてはハードルが高い。しかし、それに対して一所懸命に取り組んでいらっしゃるのが分かるな。」というような内容なのか。それとも、単に、「実績がこの値だったから10パーセント増ぐらいでいいや。」という目標値を達成した、あるいは達成できなかったという内容なのかでは、一つの政策の評価であったとしても意味が全然違うと思いますので。そこは、こちらとしても、評価する事業の数が多いので、全ての項目について理解できているわけではないですから。

全ての項目について「目標値が適切であるかどうか」という目標値自体の評価は、現状、この会議ではできないので、そこについては、あらかじめ評価の基礎的な材料である評価シートに書いておいていただくと、それぞれの委員の評価、それは目標値が適切であるとか、高すぎる、低すぎるということも踏まえた上で、施策の実績値がどうであるか、取組がどうであるかという評価ができると思いますので。

先ほど「働き方改革」の話もありまして、逆行するような意見かもしれないですがけれども、是非ともそういう基礎的な情報を評価シートの中に文章で。現状の取組は全ての項目について書かれていると思いますので、加えて、なぜこの値が目標値になってきているのか。毎年の値の意味付けまでは構わないと思うのですが。ただ、それも見ていて疑問に思うところはたくさんあるのですが、少なくとも、最終年度の目標値はこういう数値になっているというところを書いておいてもらいたいと。

しかし、それをあまり言うと、実際には「20パーセント増と適当に決めました。」みたいな例が出てくる可能性を恐れてはいるのですがけれども、そこも踏まえて、「今されている取組が適切である。」とか、「いや、もっと頑張ってください。」とか。あるいは、「ハー

ドルが高いのは分かっているけれども、もっと力を入れていただかないとまずいです。」
というようなところまで踏まえた議論、それが、「今後の取組への提言」の内容に関わって
くることだと思いますので。

可能であるかどうかは分かりませんが、個人的な意見として、お願いしたいと思
います。

(会長)

はい。大切なことだと思います。

思い出しました。今年の夏で思い出したことが1つあります。いろんな施策も長く続け
ていると担当者が変わるということもあって、これ数値の根拠は何ですかというときに、
すぐ後ろにいた方が答えられずに、更に後ろを振り返って、それを作成したときの担当の
方がいる。その方は御存じであったけれども、というふうなことがあったような気がしま
す。そういう意味でいうと、作ったときには理由があったのに、それがきちんと受け継が
れていなかったということが、実はその場面ではっきりしたということでもあります。

そうすると、この評価シートにそういうものが書いてあれば、我々にとって都合が良い
というだけではなくて、実際に事業を担当している部局でも、こういう理由でやっている
のだということが自然に伝わっていく。自然に伝わっているものかと思ったら伝わってな
かったということもあるのですけれども。業務の継続性ですね。

ですから、そういうところでも役に立つといいますか、そういうふうなことにもなろう
かと思しますので。根拠というものがあるとすれば、それが失われてしまわないためにと
いう意味でも、必要なことではなかろうかと思えます。たとえそれが作成されたのが自分
が担当し始めたときよりも過去であったとしても、どういう経緯でこんなことになったの
かということは、知っていて当然だと思いますので。それを書類にまとめていくという必
要はあるかとは思うので、負担はあるかもしれないですけど、大事なことではなかろう
かと、私も同じように思います。

いかがでしょうか。ほかに。

(C委員)

先ほどB委員さんがおっしゃったこと、多分、私が質問して、後ろの方で「すみません。」
みたいな顔をされたのを覚えてますので。

実際、評価をする方とすると、そこが本当は知りたくて、そこを変えたらもっと評価が
良くなるのにというアドバイスができるのですけれど、それがないと何もできなくてとい
うジレンマに陥っていたところがあるので。大変かもしれないですけど、要は、「 $y=ax+b$
なのでこうなりました。こうするからこうなるのです。」という数字をぽんぽんぽんと出
していただいたら、ああそうなんですねという話ができるのですけれど、そういう指標を
どうやって作ったかが知りたいなというのが一点。

それと、実は、それがいいからC評価が増えているのかなと思ってまして。今回、SD
Gsを前面に出していただいているとすると、SDGsというのは、ある問題をその目標
だけで解決するということは基本的に不可能で、複雑にいろんなことが絡み合った問題を
解決しなければならないということなので、ある部局がその目標だけを達成しても問題が

解決しないということが多分たくさん出てくる。そうだとすると、「横つながりの指標をたくさん持ち寄ってこの指標を作りました。」ぐらいの目標値ができてよいのではないかと思っています。そうすると、「この部局のここが達成されないからうちも達成できないんだ。」みたいな話になるかもしれないですけど、実際はそういうことでC評価は減らせる可能性があるのかなと。

私たちはC評価を付けるために仕方なく言っているところもあるのですけれども、実は、「C評価をなくす方法ってこうだね。」ということをもっと言ってもよいのかなとは少し思っています。で、徳島県として、一番良い方向に動かすためにはどうしたらよいのだろうかということを、こういうところで議論したいなと思っています。どうやって、どういうふうにというところを、非常に出しづらいかもしれないですけども、出していただくと、話ができるのかなと。

そこを出すと、ひょっとすると、4年間、今、目標を作って、バックキャスト的に評価することになっておりますけれど、実は4年先のことは分からないので、「これは指標としては無理でしょう。」という話もできるのですね。「無理でしょう。」という話をしたときに、何も根拠がないと「C評価ですね。」で終わってしまうのですね。「来年度はこういう指標にしたいのです。」ということをおっしゃっていただければ、その事情と時代の流れに合わせて、評価を、目標値を変えらるということもありかなと思っています。

そこをしっかりと説明していただいて、だからこういう結果が出て、Bになりました、Aになりましたということをおっしゃっていただければ、それはそれでよいのかなと。その辺りの議論が今後できるような会議になれば非常にありがたいなと思います。

以上です。

(会長)

ありがとうございます。

是非、そういう方向に。もちろんABCも重要です。重要なのですけれども、加えてということもございます。

そのほか、いかがでしょうか。

はい。お願いします。

(D委員)

今回の案で数値目標の客観的なABC判定に変えるというのは、重複感がなくなりますし、私は非常に良いと思います。

今までのように、今後の取組方針も加味しながらABCを付けていると、「実績だとCなのだけれども、県の今後の取組に期待してBにしましょう。」みたいな話もないではなかった。ちょっと曖昧な判定になるときもないではなかった。そういうところを一掃するという点では非常に良いと思います。

それから、やはり、評価する側として、その目標値が良いかどうかを判定するときに、全部の指標は難しいのですけれど、他県との比較ができる指標については、現状の徳島の指標が全国のランキングでどの程度の位置にあるのかということも、是非、可能なものについては全て提示していただきたい。それがあると、ほかの地域と比較して、より客観的

な判定ができるということがあると思いますので、その点を是非、お願いしたいと思いません。

(会長)

ありがとうございます。

是非、お願いしますということで、おっしゃるとおりだと思います。そういうデータなり、説明なりを受けて、評価シートを見ながら評価できればなと思います。

ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

もし、ありましたら、これで終わりということではございません。先ほど申し上げましたように「素案」、「たたき台」ということですので。ただ、方向性として、おおむね御賛成いただけただのではないかと思います。その方向性でということで、いろいろ有益な御意見を頂きましたので、それを踏まえながら改善していければというふうに思います。

また、今後、次回までに何かアイデア、考えなど思いつきましたら、いつでも事務局まで御連絡いただければということ、重ねてお伝えしたいと思います。

(監察局長)

すみません。よろしいですか。

(会長)

はい。どうぞ。

(監察局長)

事務局から、今の御意見に対して一言申し上げたいと思います。

今回、評価方式を少し変えてみようかという考えに至ったのは、先ほどおっしゃっていただきましたけれど、「働き方改革」とか、いろいろ環境が変わっている中で、本日、新聞社の記者さんにもおいでいただいております、新聞でも取り上げていただいたことには非常に感謝しておりますけれども、そういった部分もございます。

今から20年以上前の評価方式への原点回帰の話がございまして、指標に忠実に対応していくと。それが20年以上前の最初的评价方式だと思っております。そこでは、やはり、行政側が考えたAが取りやすい、それが県民の皆様に分かりやすいという意味を持って、指標を選択していたという部分があったとは思っています。

そのような中で、委員の皆様方に、代表委員による評価と、会議の場における2次評価ということで、評価を変えていただくという作業については、知事もいろんなところで申し上げておりますけれども、「現場主義」。現場のいわゆる肌感覚といいますか、温度感覚が、この会議の場で伝わってくれば。そういう考えが反映されてきたものというふうにも考えておまして。決して、これまでのやり方がですね、間違っているとか、方向が少し違ったのではないかというような、そういう感覚は我々には全くないところでは当然あるのです。

今、申し上げた背景を含めてですね、評価についても、SDGsといった様々な新しい流れを基に展開していく、進化させていきたいという中で、少し事務方で考えてみたとい

うところでございますので、会長からもお話ございましたように、まだ、これ決定というわけではございませんし、考えていく時間はございますので、今後とも忌憚のない御意見を頂ければというふうに考えておるところでございます。

以上でございます。

(会長)

ありがとうございます。

それではですね、御意見、随時、事務局の方で伺いながら、次回会議までに事務局で案を磨いていただくというふうに思います。

■閉会

(会長)

以上で、本日の議事は全て終了でございます。

それでは、最後に、提言書の取扱い等について事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

本日、御承認いただきました「新未来『創造』とくしま行動計画」の評価結果及び「県民からの優れた意見・提言」につきましては、別冊の「評価シート」と併せまして、本日付けで徳島県総合計画審議会に提出させていただきます。

同じく御承認いただきました「v s 東京『とくしま回帰』総合戦略」の評価結果につきましても、別冊の「評価シート」と併せて、本日付けで地方創生“挙県一致”協議会に提出させていただきます。

また、「とくしま目安箱 優秀提言」表彰につきましては、御選考いただきました2つの提案につきまして知事に報告することといたします。

次に、次回の戦略会議でございますけれども、先ほど申し上げましたとおり、来年3月に開催予定でございます。日程の調整を含めまして、詳細が整い次第、皆様に御案内させていただきますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

最後になりますが、本日の会議録につきましては、事務局で取りまとめさせていただきます。石田会長に御確認いただきました上で、県ホームページ等で公表させていただきますと考えておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

(会長)

以上、事務局から説明がありましたが、そのようにさせていただくことでよろしいでしょうか。

<異議なし>

それでは、異議もないようですので、そのようにさせていただきます。

以上をもちまして、本日の議事を終わらせていただきます。

議事の進行に御協力いただき、ありがとうございました。

それでは、マイクを事務局にお返しします。

(事務局)

石田会長，ありがとうございました。

それでは，最後に，田中監察局長から御挨拶を申し上げます。

(監察局長)

本日は長時間にわたる御審議，誠にありがとうございました。有意義な御意見，御提言を賜りましたことに対しまして，改めて感謝申し上げる次第でございます。

本日の審議結果を踏まえまして，速やかに総計審，そして“挙県一致”協議会へと提言書を提出いたしまして，今後の計画，戦略に活かしていく所存でございますので，どうかよろしくお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

(事務局)

それでは，これもちまして，第6回目の県政運営評価戦略会議を閉会させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。